

第4回第3次行政改革大綱策定検討部会会議録【概要】

(以下、敬称略)

【日 時】 令和元年11月12日(火) 午前9時30分～12時

【場 所】 市役所305会議室

【出席委員】 5名(小竹、大平、小坂、武井、石井)

【欠席部会員】 1名(田島)

【事務局】 3名(企画課長、企画調整係長、担当職員1名)

【配付資料】

会議次第

資料1 第3次行政改革大綱(たたき台⑤)

資料2 第3次大綱たたき台 変更点まとめ

参考資料 地方公営企業法における財務規定等の適用範囲

前回審議会会議録

【詳細】

1 開会 《企画課長》

2 部会長挨拶

【部会長より挨拶】

3 協議事項

(1) 第3次行政改革大綱について [資料1、2]

<説明>事務局

第3次行政改革大綱(たたき台)について

I 策定の趣旨について

◆4頁

- 「(1) 人口減少・少子高齢社会の進展」の「人口が35,000人を超すこと」を「人口が35,000人を下回らないようにすること」に変更した。

II 行政改革推進項目について

◆12頁

- 「(3) 市民が意見をしっかり受け止められる行政をめざして」の表現を修正した。
- 「(4) 市民のやりがいと市民力を引き出す仕組み作り」の「退職された年長者の方々」を「退職された経験豊かなの方々」に変更した。

◆13頁

- 前文の「このように、国から人員削減を求められる中で」を削除した。「生産性」を追加した。

- 「(3) 職員研修制度の見直し」の項目を、大平委員の文案を基に追加した。
- ◆ 15頁
- 「(1) 進捗管理とPDCAサイクル」に、行政評価を継続していくことを追記した。
- ◆ 16頁
- 「(4) 行政区改革」の項目を、大平委員の文案を基に追加した。
- 「(5) 機動性のある行政運営」の表現を修正した。
- ◆ 17頁
- 「4 健全な財政運営」の前文に、財政計画の策定について追加した。
- 「(1) 歳出の削減と財源の確保」を。石井委員の文案を基に修正した。
- ◆ 18頁
- 「(2) 行政サービス向上のためのICT利活用の推進」に、ICTを福祉、防災などで活用していくことを追記した。
- ◆ 23頁
- 「用語解説」にサンセット方式を追加した。

<審議>

<p>◇ たたき台全体を通してご意見があれば出してもらいたい。</p>
<p>◇ 17頁「4 健全な財政運営」について、財政計画を「策定し」と追加した方がよい。財政状況を広く市民に知らせ、課題や問題点を提起していかなければならない。</p> <p>「(3) 地方公営企業・第三セクターの経営の健全化」について、公立碓氷病院の経営は非常に厳しい状況となっている。行政改革大綱にも、公立碓氷病院について記述する必要がある。</p> <p>また、安中市の決算額の中で民生費、衛生費が多くを占めているが、総働のまちとして行政区の改革を行い、福祉・医療の共助の仕組みをつくれば、財政的な負担も減っていくと考える。その中で、碓氷病院を福祉医療コミュニティの中核的な施設と位置付け活用すべき。</p> <p>医師の確保については、市独自の取組も必要。渋川市では、医学生に対する奨学金制度がある。</p>
<p>◇ 病院の方向性については、「公立碓氷病院あり方検討委員会」で協議が行われている。行政改革をテーマとした大綱に載せられるのは、「効率化していくべき」ということまでであり、個別具体的な取組を載せるのは難しい。行政改革審議会としての役割の範囲を超えてしまう。</p> <p>「(3) 地方公営企業・第三セクターの経営の健全化」に、碓氷病院についての記述を追加する。</p>
<p>◇ 「公立碓氷病院」と明記した方がよい。</p>
<p>◇ 市民のニーズや効果が無くなった事業は、やみくもに続けるのではなく、潔く廃止しなければならない。</p>
<p>◇ 「(1) 進捗管理とPDCAサイクル」に文章を追加する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局として何点か確認させていただきたい。 1 頁「(1)「総働」の実現に向けた行政改革」について、行政改革の目的が、前半では余力を生み出すこと、後半では効率的かつ持続可能な市政運営を実現していることとしており、少し意味合いが違ってきている。表現はこのままでよいか。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「新たな発想を生み出すことが可能となります。」の「新たな発想」を「挑戦的な事業」に置き換える。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ DMOに用語解説を追加したほうがよい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 2 頁 5 行目の「もう一つは」とあるが、それに対して「一つ目」にあたる文章がない。文脈的に問題はないか。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「もう一つは」を「さらに」に変更する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 2 頁 1 3 行目「行政評価などを通じて事務事業を見直すとともに、行政改革推進項目も見直し、目標の達成を目指します。」という文章で、行政評価は行政改革推進項目の一部であるはずだが、行政改革推進項目と並列的な表現になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ この文章自体が不要。削除する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 1 頁「(1) 市民にとってわかりやすい形での情報の提供等」に、「行政課題を整理し、わかりやすく市民に提供する必要があります。そのためには必要な情報を市民目線でわかりやすく整理し発信することが必要です。」と同じ内容の文章が並んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1 文目に「市民目線で」を追加し、2 文目を削除する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 2 頁「(4) 市民のやりがいと市民力を引き出す仕組み作り」について、文章のつながりが悪く、内容も具体的すぎる。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ そもそも「庁舎内で市民を適切な部署に誘導したり」という例はニーズがあるのか、例示するのであればニーズがある内容を書かなければならない。
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合案内は外部委託しており、専門の担当者を配置している。庁舎内の案内という意味で退職者に担ってもらえることは少ないかもしれない。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 具体例を削除し、抽象的な表現してはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 表現を見直す。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「(3) 市民が意見をしっかり受け止められる行政をめざして」の「市民が意見を出しても」という表現が否定的に感じる。「市民が意見を出したときには」に変更したい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 3 頁の前文「地域社会の変化が急であり、国からの補助金やパイロット事業の募集など短期間で募集が行われることが多く」で「募集」という言葉が続いている。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「募集」を「公募」に変更する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「人事評価についてもさらに透明性を確保する必要があります。」について、人事評価制度は、運用方法も職員に周知され、結果も返却されている。透明性が無いとは感じない。職員のやりがいにつながるという意味では、人事評価の実効性、公平性とい

う言葉のほうが馴染むのではないか。
◇ 人事評価については削除し、「職場環境をつくる必要があります。」という表現に変更する。
● 16頁「(4) 行政区改革」については、文章の最初に「本市には」を追加、「市民総働のまち あんなか」を「総働」に変更したい。行政区の説明は、用語解説に移行してもよいか。
◇ 事務局案のとおり変更する。
◇ 前文の「行政区が解体・崩壊の危機に瀕しています。」について、文案では、「行政区が」ではなく「地域社会が」解体・崩壊の危機に瀕しているという表現だった。
◇ 「地域社会が解体・崩壊の危機に瀕しています。」に変更する。
● 18頁「(2) 市民サービス向上のためのICT利活用の推進」について、最後に追加された「その他、災害防止、遠隔医療の可能性も探り、同時に情報弱者への目配せも忘れてはいけません。」は、文脈的に1段落目の最後に移したほうがよいのではないか。
◇ 「遠隔医療」は、福祉分野といったように抽象的な表現に置き換えた方がよい。
◇ 表現を見直す。

(2) 今後の予定について

- 第5回部会の日程調整について後日連絡させていただく。
- 次回は部会としての答申案を確定したい。

4 その他

- 特になし。

5 閉会